

胃内視鏡検査を受けられる方へ

胃内視鏡検査は、口または鼻から内視鏡（カメラ）を入れて、食道・胃・十二指腸を調べます。

通常は経口内視鏡を施行しておりますが、経鼻内視鏡とのいずれかを選択できます。それぞれの長所、短所や適応について下記の表を参考にしてください。

特徴	経口内視鏡	経鼻内視鏡
前処置	<ul style="list-style-type: none"> 消泡剤と粘液除去剤を飲みます ☆ 咽頭反射を抑える為に咽頭部に十分麻酔をかけます 必要時、鎮痙剤（胃の動きを抑える注射）を行います 	<ul style="list-style-type: none"> 消泡剤と粘液除去剤を飲みます ☆ 鼻腔のむくみをとる薬や麻酔液を鼻に点鼻し、麻酔剤を塗布したチューブを挿入します 必要時、鎮痙剤（胃の動きを抑える注射）を行います
咽頭反射の有無	カメラが舌に触れることにより、咽頭反射が起こりやすい（鎮静剤の使用により多少軽減されます）	カメラが舌に触れないので、咽頭反射は起こりにくい（ただし、全く反射がなくなるわけではありません）
検査後の不快感や痛み	咽頭痛・腹満感などが起こる場合があります	鼻の痛み・鼻汁・鼻出血・耳閉感・咽頭痛・腹満感などが起こる場合があります
適応		<ul style="list-style-type: none"> 咽頭反射の強い方
不適応	<ul style="list-style-type: none"> 局所麻酔薬（キシロカイン）にアレルギーがある方 	<ul style="list-style-type: none"> 抗凝固剤内服中の方 血液疾患などによる出血傾向がある方 鼻の既往がある方、副鼻腔炎・蓄膿症・アレルギー性鼻炎がある方 局所麻酔薬（キシロカイン）にアレルギーがある方

※ 検査当日、義歯（入れ歯）については自己管理をお願いします。

《鎮静剤について》

経口内視鏡の場合、ご希望により鎮静剤（緊張を和らげる薬）を注射します。

- ※ ただし、車やバイクの運転はできません。
- ※ 心臓疾患・脳血管障害・呼吸器疾患・緑内障（高眼圧）治療中の方は、使用できない場合があります。
- ※ 原則、70歳以上の方・授乳中の方は利用できません。

《組織検査について》

胃内視鏡検査を実施するにあたって、検査中に異常所見（潰瘍・ポリープ・ビランなど）を認め、医師の判断にて必要とした場合、病理検査（悪性の有無を調べる検査）を行うことがあります。

- ※ 組織検査を受けた場合は、保険扱いとなり一部ご負担金をいただきます。（保険証をお忘れの方は、全額自己負担となります。）

《抗凝固剤・抗血栓薬内服中の方へ》

- ※ 抗凝固剤・抗血栓薬は中止せず、内服継続してください。
- ※ 原則、生検（組織検査）は行いません。
- ※ 抗凝固剤・抗血栓薬中止による脳梗塞、心筋梗塞の発生が非常に懸念されるため、生検は行いません。
生検が必要だと判断された場合、医療機関（主治医）を受診してもらいます。
- ※ サプリメント内服に関しては、前日の朝よりサプリメントの内服を中止し上部内視鏡を受けてください。

《胃内視鏡検査が適さない方》

- ※ 妊娠中、妊娠の可能性のある方

